様式 3-2

公　開　文　書

研究課題名 （研究番号　675）	SLE 合併妊娠と子宮筋層の菲薄・線維化の病態解明
当院の研究 責任者（所属）	本田　律生（産科）
他の研究機関 および各施設の研究責任者	【代表研究機関】 京都大学医学部附属病院　総合周産期母子医療センター 講師　最上　晴太 【共同研究機関】 大阪赤十字病院　産婦人科　部長　岩見　州一郎 【既存試料・情報の提供のみを行う機関】 順天堂大学　産婦人科　教授　板倉　敦夫 宮崎大学　産婦人科　教授　桂木　真司 友愛医療センター　産婦人科　部長　前濱　俊之 三重大学　産婦人科　教授　池田　智明 川崎医科大学　産婦人科　教授　下屋　浩一郎 町田市立町田市民病院　産婦人科　部長　長尾　充 東京医科歯科大学　産婦人科　教授　宮坂　尚幸 岡山大学　産婦人科　教授　増山　寿 久留米大学　産婦人科　教授　津田　尚武
本研究の目的	全身性エリテマトーデス（SLE）は、多彩な全身性炎症性病変を特徴とする自己免疫疾患であり、20～30 歳代の女性に後発するため内科疾患合併妊娠でも非常に多く、その妊娠・分娩中の管理は重要です。SLE は膀胱や腎臓、心筋など各種臓器の線維化を生じることが知られていますが、妊娠中の子宮に対しての影響はこれまでわかっていません。しかし、SLE 合併妊娠では、微弱陣痛、子宮筋層の菲薄化、癒着胎盤、分娩後の子宮収縮不良による産褥大量出血が生じることが知られています。

	本研究では SLE 合併妊娠の合併症として筋層の菲薄化・線維化が生じることを明らかにします。これにより SLE 合併妊娠では、 1）微弱陣痛・分娩停止のリスク→陣痛誘発・促進が無効な可能性がある。 2）子宮破裂のリスクが高く、帝王切開後経腟分娩などの際に厳重な管理が必要 3）癒着胎盤、分娩後の子宮収縮不良のハイリスク、分娩時に大量出血に対する準備が必要 などの提言ができ、母体・胎児への妊娠・分娩時の危機回避に寄与すると考えます。
調査データ 該当期間	2009 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日の期間に妊婦健診を受診、分娩された方
研究の方法	対象妊婦さん、患者さんの診療情報（個人情報を除く）と病理標本を代表研究機関に提供します。 代表研究機関では、提供をされた病理標本を免疫組織染色で解析します。 【診療情報】 年齢、合併症、既往歴、現病歴、妊娠分娩歴、不妊治療の種類と有無 妊娠経過：外来・入院での診療録記載項目、採血・尿検査データ、超音波所見、胎児心拍モニタリング所見、投薬（内服薬、注射薬）の情報 分娩経過： ＜母体＞分娩様式、分娩所要時間、分娩時出血量、胎盤所見 ＜新生児＞出生体重、性別、アプガースコア 【病理標本組織の検討】

	HE 染色、トリクローム染色による子宮筋の線維化・菲薄化の評価、免疫組織染色（好中球、リンパ球、マクロファージ、α-smooth muscle actin など）
個人情報の取扱い	提供する診療情報には個人情報を含みません。
本研究の資金源（利益相反）	本研究は日本学術振興会から科学研究費補助金（科研費）の提供を受けますが、資金提供者は研究の企画、運営、解析、論文執筆に関与しません。
お問い合わせ先	熊本市民病院　産科 担当者：本田　律生 連絡先：096-365-1711 【代表研究機関】 京都大学医学部附属病院　産科婦人科 担当者：最上　晴太 連絡先：075-751-3269
備　考	